

JALPAC 研究の進捗状況について

中島健二¹⁾，瀧川洋史¹⁾，森田光哉²⁾，饗場郁子³⁾，小野寺理⁴⁾，池内 健⁵⁾，
下畑享良⁶⁾，徳田隆彦⁷⁾，村山繁雄⁸⁾，安井建一¹⁾，渡辺保裕¹⁾，JALPAC 研究グループ

1) 鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経内科学分野，2) 自治医科大学内科学講座神経内科学部門，3) 国立病院機構東名古屋病院神経内科，4) 新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター分子神経疾患資源解析学，5) 新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター遺伝子機能解析学，6) 新潟大学脳研究所神経内科，7) 京都府立医科大学大学院医学研究科分子脳病態解析学，8) 東京都健康長寿医療センター

研究要旨

パーキンソン症候群(PS)には、進行性核上性麻痺(PSP)や大脳皮質基底核変性症(CBD)などの神経変性疾患が含まれる。これらの神経変性疾患は、原因不明で根治療法は未だない。希少疾患であることから多数例の生体試料収集は困難であり、更なる臨床研究を進めるには、詳細な臨床情報が整った生体試料の収集とともに生体試料バンクの設立が要望されている。本研究に参加している主なメンバーを構成員として多施設での PS の臨床情報・画像情報・生体試料を収集する多施設共同前向き研究を行う研究組織として JALPAC (Japanese Longitudinal Biomarker Study in PSP and CBD)を設立し、詳細な臨床情報の整った生体試料を経時的変化を把握しながら All Japan で収集する体制を整備した。

A. 研究目的

パーキンソン症候群(PS)のなかでも臨床的に進行性核上性麻痺(PSP)や大脳皮質基底核変性症(CBD)を疑う症例を主な対象として、詳細な臨床情報の整った生体試料を経時的変化を把握しながら All Japan で収集する体制を整備し、PSP/CBS の原因究明、治療方法の開発を目的としている。

B. 研究方法

本研究班の班員、ならびに、研究班には属さないが、PS 研究を積極的に進めている施設にも協力を依頼し、PS などの臨床情報、画像、生体試料、遺伝子試料を収集する多施設共同前向き研究体制の整備を行った。

(倫理面への配慮)

本研究は、疫学研究に関する倫理指針、臨床研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針について鳥取大学医学部倫

理委員会に申請し、承認を得て行った。

C. 研究結果

本研究に関して鳥取大学医学部倫理委員会に申請して承認を受け、参加各施設の倫理委員会で本研究の承認を進めた。

本研究に参加している主なメンバーを構成員として多施設での PS の臨床情報・画像情報・生体試料を収集する多施設共同前向き研究を行う研究組織として JALPAC (Japanese Longitudinal Biomarker Study in PSP and CBD)を設立した。関係者による 8 回の会議を開催し、生体試料の匿名化、対象疾患の診断基準、臨床情報チェックシート、検体採取・取り扱い、保管・管理のプロトコール、収集した試料の活用ルールなどを協議し、研究体制を整備した(図 1)。

本研究には 31 施設が参加し、20 施設において倫理委員会の承認を受けている(図 2)。平成 26

年 11 月より症例の登録，ならびに，試料収集を開始し，4 例の症例を登録し，臨床情報，ならびに，生体試料を収集した．

図 1 . JALPAC 研究の流れ

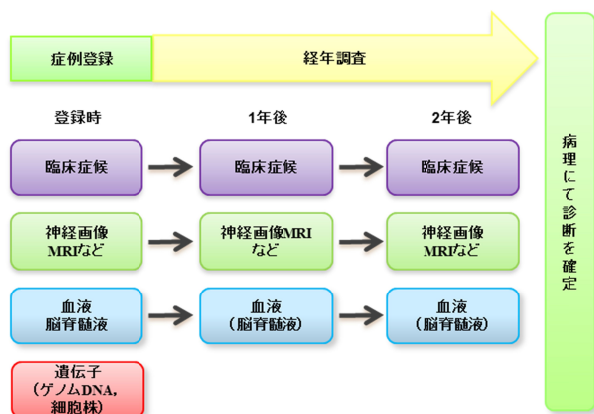


図 2 . JALPAC 研究参加施設



D. 考察

生体試料収集体制の整備によって，詳細な臨床情報の揃った生体試料を共通のプロトコールに基づいて収集する体制が整った．本研究によって多数例の臨床情報と生体試料が収集されることによって PSP/CBD の原因究明，治療方法の開発に貢献できることが期待される．

E. 結論

全国共同研究による PS の生体試料収集に向けて研究協力体制が整備された．今後，本研究をさらに推進することにより，多数例での生体試料収集が望まれる．

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

(発表雑誌名巻号・頁・発行年なども記入)

1. 論文発表

- 1) Adachi T, Kitayama M, Nakano T, et al. Autopsy case of spinocerebellar ataxia type 31 with severe dementia at the terminal stage. *Neuropathology*. 2014 Dec 11.
- 2) Tanaka K, Wada-Isoe K, Yamamoto M, et al. Clinical evaluation of fatigue in Japanese patients with Parkinson's disease. *Brain Behav*. 2014 ;4(5):643-9.
- 3) Kurashiki-Osaka T, Adachi T, Nakayasu H, et al. Alpha-synuclein accumulation in a patient with Auerbach's plexus of pure autonomic failure. *Intern Med*. 2014;53(19):2261.
- 4) Miyashita A, Wen Y, Kitamura N, et al. Lack of genetic association between TREM2 and late-onset Alzheimer's disease in a Japanese population. *J Alzheimers Dis*. 2014;41(4):1031-8.
- 5) Yasui K, Yabe I, Yoshida K, et al. A 3-year cohort study of the natural history of spinocerebellar ataxia type 6 in Japan. *Orphanet J Rare Dis*. 2014; 9: 118.
- 6) 野村哲志，田中健一郎，中島健二. パーキンソン治療薬とギャンブル依存症. *Clinical Neuroscience* 2014; 32(1): 87-89.
- 7) 伊藤悟，安井建一，田中健一郎，ほか. Parkinson 病にみられた性欲過剰症状にほう抑肝散が有効であった 1 例. *神経治療学* 2014; 31(4): 431-434.

- 8) 渡辺保裕, 中島健二. ALS1 (SOD1). 神経症候群 2014; 2: 473-477.
- 9) 足立 正, 齋藤祐子, 中島健二, ほか. 足立正, 齋藤祐子, 中島健二. Dementia Japan 別冊 2014; 28: 182-188.

2.学会発表

- 1) Takashi Nomura, Yuichi Inoue, Kenji Nakashima. Characteristics of REM sleep behavior disorder in patients with multiple system atrophy. 14th Asian & Oceanian Congress of Neurology (AOCN2014).
- 2) Yuki Tajiri, Kenji Wada, Mao Hamada, et al. Comparison of MoCA and MMSE for evaluating cognitive function in japanese patients with Parkinson's disease. MDC Congress 2014 the 18th international Congress in Stockholm.
- 3) Takashi Nomura, Kenji Nakashima. Clinical characteristics and course of restless legs syndrome(RLS) Restless legs syndrome(RLS) in Parkinson's disease. Asian Sleep Research Society 2014,
- 4) 伊藤悟, 中島健二. ヒト シヌクレイン過剰発現 PC12 細胞におけるミトコンドリア毒性による TRPC1 チャンネル抑制を介した細胞毒性についての研究. 第 37 回 日本神経学会学術大会 .
- 5) 瀧川洋史, 野村哲志, 中島健二. パーキンソン病に伴う攣縮性斜頸に対してボツリヌス毒素治療が有効であった 1 例. 日本ボツリヌス治療学会第 1 回学術大会.
- 6) 野村哲志, 井上雄一, 中島健二. パーキンソン病患者における Restlesslegs syndrowe/legmotor restlessness の臨床経過.

- 第 67 回 日本自律神経学会総会.
- 7) 瀧川洋史, 山本幹枝, 渡辺保裕, ほか. 家族歴のある進行性核上麻痺症例. 第 26 回日本老年医学会中国地方会.

H.知的所有権の取得状況（予定を含む）

- 1.特許取得
- 2.実用新案登録
- 3.その他

特になし